

平成 25 年度 京都府立宮津高等学校伊根分校 学校経営計画 (実施段階)

平成 26 年 2 月 26 日

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>智力、人間性、体力が調和した生徒の育成をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人一人が安心して楽しく過ごせるクラス・学校作りを行う。 2 すべての生徒に基礎学力を定着させるため、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 3 関係専門機関との連携を強化し、多様な生徒に応じた支援を行う。 4 生徒一人一人の能力・適性を把握し、系統的な進路指導を行い希望進路の実現を図る。 5 人間的な触れあいを密にしたきめ細かな指導により、心豊かな人間性を育てる。 	<p>【成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規律の確保とマナーの向上について、全教職員が目線をそろえた指導ができた。 2 特別支援教育会議や教育相談会議を適切に開催し、課題のある生徒について共通理解を深め、生徒指導に活かすことができた。 3 学校行事や部活動などを通して、生徒の自己有用感を高める取り組みが充実してきた。 4 伊根分校の将来像を、平成 25 年度から実施する新教育課程の検討と平行しておこない、全教職員の共通理解ができた。 <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援コーディネーターを中心とした支援体制を構築する。 2 新教育課程の実施と平行して、生き生きとした学校生活を送りながら自己有用感を高める教育活動を創造する。 3 関係専門機関（障害者自立支援センター、スーパーサポートセンター、ハローワーク、特別支援学校等）との連携を深める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業規律が確保され、お互いを大切にするクラス・学校作りを行う。 2 それぞれの生徒の課題を把握したうえで、特別支援コーディネーターを中心とした支援体制を構築する。 3 多様な学習歴をもつ生徒に、基礎学力を定着させるため、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。 4 関係機関（障害者自立支援センター、スーパーサポートセンター、ハローワーク、特別支援学校等）との連携を強化する。 5 様々な体験活動・部活動・ボランティア活動を通して、生徒の自己有用感を高め生き生きとした学校生活を送る生徒を育成する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題								
組織・運営	学校の教育力を向上させる。	<p>評価基準の明確化、授業のユニバーサルデザイン化を図り多様な生徒に対するわかりやすい授業を目指す。</p> <p>[授業アンケートにおける授業に対する満足度]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>76%以上</td> <td>75～70</td> <td>69～60</td> <td>60未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	76%以上	75～70	69～60	60未満	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートによる授業満足度は、90.4%の生徒が満足していた。今後、授業の質を高める取組が必要である。 ・特別支援教育の研修会は、3回実施した。力量とモチベーションをあげる研修会を企画したい。 ・中学校の職員に伊根分校の教育内容を各校平均5回訪問し、広報に努めた。
	A	B	C	D									
	76%以上	75～70	69～60	60未満									
教員の資質能力向上のための取組みを行う。	<p>特別支援教育の視点から、研修会を実施する。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>5～3回</td> <td></td> <td>3回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6回以上	5～3回		3回未満	B			
A	B	C	D										
6回以上	5～3回		3回未満										
中学校への広報活動を計画的に行う。	<p>伊根分校の取組みを中学校職員に広報する。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>5～3回</td> <td></td> <td>3回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6回以上	5～3回		3回未満	B			
A	B	C	D										
6回以上	5～3回		3回未満										
教務部	わかる授業、ためになる授業、楽しい授業を計画的に展開する。	<p>ユニバーサルデザインの発想も取り入れ、授業法の改善をはかりつつ、教材研究に努める。</p> <p>定期テストの平均点を40～60点台にする。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>4回以上</td> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>2回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	4回以上	3回	2回	2回未満	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のユニバーサルデザイン化、よりよい評価のあり方は、定着してきている。 ・定期テストの問題作成と点検と同様に追認と補充指導も学校全体の取組として定着してきた。 	
	A	B	C	D									
4回以上	3回	2回	2回未満										
追認や補充指導を充実させる。	<p>一定の時間を確保し、確かな学力を身につけさせる機会とする。追認・補充指導の出席率を100%を目指す。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D	B	A						
A	B	C	D										

		95%以上	94～90	89～85	85未満			
	新教育課程実施にむけて、新しいボランティア活動の場を探る。	地域に貢献しながら、伊根分校生徒の活動の場を広げることができるような道筋を探る。				A		・地域とのつながりは、保育所、役場、漁業、農業、観光、福祉関係等多方面を開拓できた。
		A	B	C	D			
		3以上	2	1	0			
生徒指導部	基本的な生活習慣を身につけ、規律ある生活態度を確立させる。	あいさつ指導を行う。(教務・進路と連携) [アンケートによる生徒挨拶実行率%]				B	B	アンケートの結果 ・生徒あいさつ実行率「B 89～70%」 ・ルールやマナー理解度「A 90%以上」 ・交通安全教室 気象警報(2回)により実施できなかった。 ・人権講演「集団で守るべきルール」生徒理解度「A 90%以上」 ・ボランティア活動生徒参加率「A 90%以上」 以上のように交通安全学習以外は概ね良好であった。
		A	B	C	D			
	90%以上	89～70	69～40	40未満				
	日々の指導及び全校集会を定期的実施してルールやマナーの指導を徹底する。 [全校集会実施後のアンケートによる理解率%]				B			
		A	B	C	D			
	交通ルール(バイク・自動車)を守らせる。	交通安全教室(宮津警察署他)の実施。 [安全教室実施後のアンケートによる生徒理解率%]				—	B	
		A	B	C	D			
		90%以上	89～70	69～40	40未満			
	集団の中で守るべきルールと人権について学習する。	人権学習の一環として「集団の中で守るべきルールと人権」について講演会を実施する。 [人権講演会実施後のアンケートによる生徒理解率%]				A		
		A	B	C	D			
		90%以上	89～70	69～40	40未満			

	特別活動やボランティア活動を積極的に取り組み豊かな心を育成させる。	ボランティア活動において社会福祉関係団体と連携をとり実施する。また地域美化ボランティア活動を実施する。 [生徒参加率%] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70</td> <td>69～40</td> <td>40未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70	69～40	40未満	A		
A	B	C	D										
90%以上	89～70	69～40	40未満										
進路指導部	生徒一人一人の進路実現と「生きる力」をつける取り組みを進め、自立していける能力の育成に努める。	4年生一人一人の能力・適性を把握し、進路実現に努め保護者・生徒から信頼される進路指導を目指す。 [4年生（9名）の進路希望達成数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>9人</td> <td>8～7</td> <td>6～5</td> <td>5未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	9人	8～7	6～5	5未満	A	B	・卒業生全員の進路を実現することができたが、次年度の勤労体験学習先については未定の状態である。
	A	B	C	D									
9人	8～7	6～5	5未満										
勤労体験学習の方向性と「進路のてびき」の活用に努める。	勤労体験学習の意義を生徒一人一人に理解させ、勤労意欲と生きる力の育成に努める。 [3年生（2名）に通年を通してアルバイトを体験させ勤労体験学習先を確保する。] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>2人</td> <td>1人</td> <td></td> <td>0</td> </tr> </table>	A	B	C	D	2人	1人		0	D			
A	B	C	D										
2人	1人		0										
保健部	健康安全に関する啓発活動を年間を通じて行う。	講演会（性教育・食生活・依存症など）・LHRでの保健指導を通じて健康・安全にかかわる問題意識を高める。 [アンケート %（よく理解できた+理解できた）] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90以上</td> <td>89～70</td> <td>69～50</td> <td>50未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90以上	89～70	69～50	50未満	B	A	1学期 性教育（学年）87% 食育講演会85% 2学期 性教育（全体）80% 平均 84% 保健だより 1月末時点で14回発
		A	B	C	D								
90以上	89～70	69～50	50未満										
保健だよりの発行により身近な健康問題の啓発を年間通じて行う。 [保健だよりの年間発行回数]	A	B											

			A	B	C	D			行
			12以上	11~9	8~6	5未満			
	校内美化と学習環境の安全を図る。	保健委員会の活動と併せて、月1回の安全点検を行う。 [安全点検の年間回数]					B		実施月 6・7・10 12月上旬・12下旬 残り2・3予定7回
			A	B	C	D			
			10以上	9~7	6~4	3未満			
第1学年	挨拶の励行、時間厳守を徹底し、基本的な生活習慣を確立する。	高校生としての自覚を持たせ、時間厳守や挨拶など基本的な生活習慣を確立していけるように、関係分掌と連携を図り指導を行う。 [授業アンケートの項目7におけるA+B（ベル着ができていない）の割合]	A	B	C	D	B	B	「できている（B以上の評価）」と回答した生徒の割合は、項目7 91%、項目8~9 86%であった。
			95%以上	94~85	84~75	75未満			
	授業規律を徹底するとともに、学習環境を整備する。	授業に対して真剣に取り組める学習環境を整備できるように、教科担当と連携を図り指導を行う。 [授業アンケートの項目8~9におけるA+B（授業に真面目に取り組んでいる）の割合]					B		
			A	B	C	D			
			95%以上	94~85	84~75	75未満			
第2学年	集団の一員としての自覚を高める。また、基礎学力の充実を図る。	あいさつ、身だしなみなど基本的な生活マナーを定着させる。遅刻や欠席をなくし、時間や期限を守る意識を高めるよう、繰り返し指導する。 [アンケートによる挨拶自己評価達成度]					A		アンケートによる挨拶自己評価達成度は88.9%であった。しかし、遅刻や欠席は昨年度より多かったため、時
			A	B	C	D			

		85%以上	84～75	74～65	65未満		間や期限を守る意識を高めるよう、今後も引き続き指導していきたい。	
第3学年	勤労体験先や卒業後の進路指導を展開する。	勤労体験学習の意義を生徒一人一人に理解させ、勤労意欲と生きる力の育成に努める。 [3年生(2名)に通年を通してアルバイトを体験させ勤労体験学習先を確保する。]					D	3年生2名全員が、アルバイト体験ができた。
		A	B	C	D			
		2人	1人		0			
第4学年	勤労体験をやり抜き、進路希望の実現に努める。	職場、進路部との連携を密にし、細やかな指導を行う。 [進路希望者全員の目標達成]					A	<ul style="list-style-type: none"> 勤労体験学習は、全員が一年を通してやり抜くことができ、自信を持って社会に出る糧になった。 全員が自分の進路、就職希望を叶えることができた。
		A	B	C	D			
		100%以上			100%未満			
国語科	漢字力、読書力を高め、広く国語の力を養う。	授業内で漢字テストを積極的に行い、生徒の学習意欲を高める。 [実施回数で評価する]					A	<ul style="list-style-type: none"> 1～3年、すべての学年において漢字テストを実施し、定期考査前には復習を促した。 あまり継続して新聞を活用することができなかった。今後は時事的な
		A	B	C	D		B	
		15回以上	14～10	9～5	5未満		C	
		新聞を用いた授業を行い、さまざまな出来事や問題に対する生徒の興味や関心を高める。 [実施回数で評価する]						

		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>10回以上</td> <td>9～6</td> <td>5～4</td> <td>4未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	10回以上	9～6	5～4	4未満			記事以外でも新聞を用いていきたい。
A	B	C	D										
10回以上	9～6	5～4	4未満										
地歴科	<p>現代社会の諸問題に対して、社会人として関与していこうとする意欲や態度とその土台にあるべき倫理観や地理的知識を身につけさせる。</p>	<p>身近な身の回りの生活に関連した話題を提供し、学ぶ意義の感じられる授業をめざす。小学生段階での基礎的知識のもれに気づいた時は教科の枠にとらわれず、その解消を心がける。世界の国々の名を列挙できる力量の伸び(生徒の平均値)を成果を測る物差しとする。</p> <p>[テストによる国名の正答数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>40以上</td> <td>39～20</td> <td>19～10</td> <td>10未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	40以上	39～20	19～10	10未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、地図帳を開いて(時事問題に関わる)地名を探す訓練がほぼできるようになった。 ・2,3年についても地理的関心、歴史的関心、社会教養的関心に興味を持てるようになってきた。 	
	A	B	C	D									
	40以上	39～20	19～10	10未満									
<p>日本の歴史というツールを用いて社会人として必要な倫理観や基礎的知識を身につけさせる。</p>	<p>旧国名と現在の都道府県の名称と位置関係が正しく言える力量の伸び(生徒の平均値)を成果を測る物差しとする。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>15以上</td> <td>14～11</td> <td>10～5</td> <td>5未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	15以上	14～11	10～5	5未満	B			
A	B	C	D										
15以上	14～11	10～5	5未満										
<p>歴史を通して人間の内面に迫り生徒の人間性や判断力、コミュニケーション能力等の開発に資する</p>	<p>記憶として印象に残る歴史上の人物を増やす。歴史上の人物を列挙できる力量の伸び(生徒の平均値)をもって成果を測る物差しとする。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>15人以上</td> <td>14～11</td> <td>10～5</td> <td>5未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	15人以上	14～11	10～5	5未満	C			
A	B	C	D										
15人以上	14～11	10～5	5未満										
数学科	<p>生徒一人一人の学力に対応した授業の創造に努める。</p>	<p>わかる授業の創造に努める。生徒の理解度を確かめながら、授業における満足度をあげる。</p> <p>[授業アンケートの項目1～6におけるA+B(授業に満足している)の割合]</p>	A	<p>学年末の授業アンケートで授業満足度85.8%であった。</p>									

		A	B	C	D		
		75%以上	74～65	64～60	60未満		
理 科	自然の物事・現象に対する興味や関心を喚起し、科学を学ぶ意義や楽しさを実感させる。	科学に対する意欲・関心をはかるため、各授業で配布するプリント課題の取り組み状況を確認する。 [年間を通して取組んでいない回数で評価する]				B	取組状況を確認した結果、平均2.3回の未実施があった。比較的良い数値が得られている。
		A	B	C	D		
	1回	2～5	6～10	11以上			
		科学に関係する出来事やニュースを新聞から引用し授業に取り入れ、科学に対する興味や関心を高める。 [実施回数で評価する]				B	B
		A	B	C	D		新聞の切り抜きやジャーナルからの抜粋を用いて普段気にしない事象や身近な現象を考えることができている。
		15回以上	14～10	9～5	5未満		科学的思考を取り入れた実験内容を行うべきであり、実験後の学習を充実させる。
	目的意識をもって観察、実験などを行い科学的探究心を養う。	一人一人が目的を把握した実験、観察を主体的に行えるように指導する。 [実験・観察を実施した回数で評価する]				B	
		A	B	C	D		
		8回以上	7～6	5～2	2未満		
保健体育科	課題学習（調査・研究・発表）を取り入れ、保健について興味関心を持たせる。	課題学習がスムーズに実施できるように各関係機関と連携をとり資料を準備し環境を整える。 [アンケート実施後の生徒満足度%]				B	アンケートの結果 課題学習生徒満足度「A90%以上」 新体力テスト実施率「A90%以上」 以上のように大変良好であった。
		A	B	C	D		
	90%以上	89～70	69～40	40未満			
	健康を保持増進させるために、自己の体力を知り、それを向上させる実践力を養う。	新体力テストを実施する。 [完全実施率%]				A	
		A	B	C	D		
		90%以上	89～70	69～40	40未満		

芸術	授業を通して、芸術を愛好する心情を育て、感性と表現力を高める。	鑑賞と表現の調和のとれた充実を図り、授業における満足度をあげる。 [授業アンケートの項目1～6におけるA+B（授業に満足している）の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>95%以上</td> <td>94～85</td> <td>84～78</td> <td>77未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	95%以上	94～85	84～78	77未満	A	学年度末の授業評価で、授業満足度97.6%であった。
A	B	C	D									
95%以上	94～85	84～78	77未満									
英語科	英語学習に地道に取り組む態度を育て学習の定着を図る。	落ち着いて学習に取り組ませる。ノートをとらせたり、提出物を出させる。こまめにチェックを入れ評価する。 [学期毎アンケート % 「しっかり取り組めた」＝「よく分かる」＋「分かる」] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70</td> <td>69～50</td> <td>50未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70	69～50	50未満	B	取組では「ガンバツ」「ふつう」という回答が合わせて71%、理解は「分かる」「ふつう」が合わせて67% (2学期末)
A	B	C	D									
90%以上	89～70	69～50	50未満									
家庭科	日常生活に必要な基礎的な知識・技術を身に付け、実際に生活に役立てるようにする。	身近な資料の提示や実験、実習を多く取り入れ、実生活と結びつけながら授業を進めていく。[実験・実習の実施回数] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>30回以上</td> <td>29～20</td> <td>19～10</td> <td>10未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	30回以上	29～20	19～10	10未満	A	調理実習を中心に、年33回の実習・実験を実施した。
A	B	C	D									
30回以上	29～20	19～10	10未満									
情報科	パソコンや情報器具を活用し、いろいろなソフトが活用できる能力の育成に努める。	わかる授業の創造に努める。生徒の理解度を確かめながら、授業における満足度をあげる。 [授業アンケートの項目1～6におけるA+B（授業に満足している）の割合] <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>83%以上</td> <td>82～75</td> <td>73～68</td> <td>67未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	83%以上	82～75	73～68	67未満	B	アンケートの結果 授業満足度 「B 82～75%以上」 以上のように概ね「良好」であった。
A	B	C	D									
83%以上	82～75	73～68	67未満									
商業	基礎的な簿記の知識を磨き、財務	検定試験合格を目標に設定し、学習意欲を高める。また、			簿記の受験率は50%、							

	諸表を作成する技術を身につける。	小テストを実施し、基礎的な知識の積み重ねを図る。 [簿記実務検定受験率]	D	D	検定合格率は51.9%であった。検定合格率は検定によって差が大きく、特に合格率が低かった簿記実務検定、情報処理検定の指導を今後、強化していきたい。								
	検定試験に挑む学力を養成する。	ビジネス文書実務検定、情報処理検定、簿記実務検定、珠算・電卓実務検定の指導を強化する。 [検定合格率]	D										
		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>84～75</td> <td>74～65</td> <td>65未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	85%以上	84～75	74～65	65未満			
A	B	C	D										
85%以上	84～75	74～65	65未満										
		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>84～75</td> <td>74～65</td> <td>65未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	85%以上	84～75	74～65	65未満			
A	B	C	D										
85%以上	84～75	74～65	65未満										
総合的な学習の時間	基礎的な学力の定着を学校あげて取り組む。	基礎的な漢字と計算能力を個の能力に応じて伸ばす。 ABCD 4段階の評価をしているが、AまたはBの評価を獲得する生徒の割合を増やすことを目指す。 過去2年では66%の生徒が得ている。		C	過去2年に比べやや評価は下がったが、真面目に取り組んでいる。								
		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>70%以上</td> <td>69～60</td> <td>59～50</td> <td>50未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	70%以上	69～60	59～50	50未満			
A	B	C	D										
70%以上	69～60	59～50	50未満										

学校関係者評価委員会による評価	登下校時や学校祭での生徒の様子等を見ることによって、年々落ち着いた雰囲気のある学校になってきたことがわかる。薦池小豆の播種、収穫、製品開発、伊根浦巡り、ブリの解体と調理、長寿苑のボランティア清掃、ヘシコレシピの作成など伊根地域と関わる活動を行っている特色ある教育活動の一端を知ることができた。今後も、伊根地域に結びついた特色ある教育活動を通して、多くの尺度で生徒を評価し併せて生徒の自己有用感を高め伸ばして頂きたい。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向	学校行事、体験活動、ボランティア活動等を充実させることで生徒の自己有用感を高める。 保護者との連携を図り、生徒理解を深める。併せて、個に応じた指導を強化する。
--------------	--

性	卒業後の自立支援に向けて、関連専門機関との連携を深める。 校内一致した、授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。
---	---